

環境心理生理運営委員会 議事録 2014 年度 第 3 回

文責 辻村

- A. 【日 時】 2014 年 11 月 28 日 金曜日 (18:00~20:00)
- B. 【場 所】 建築会館 会議室
- C. 【出席者】 松原斎樹(主査)、辻村壮平(幹事)、
大井尚行、大石洋之、讃井純一郎、楨究、宗方淳
順不同・敬称略
- D. 【配布資料】 2014 年度 第 2 回環境心理生理運営委員会議事録(案)
2014 年度 第 3 回環境心理生理運営委員会議事次第
2014 年度 第 3 回環境工学本委員会資料
※2013 年度より、資料に関しては印刷物ではなく
オンラインストレージサービス機能を用いてデータで配布している。

E. 【報告事項】

1. 2014 年度 第 2 回環境心理生理運営委員会議事録(案)の確認

先回議事録(案)の確認を行った。楨委員から「大会若手優秀発表の受賞候補者については、他の候補者の有無について審議時の運営委員会に欠席されていた委員にも ML で確認する」旨を、宗方委員から「第 28 回講演会は東京都市大学の宿谷先生が建築学会からの講演者となっている」、「チュートリアルの際の動画配信の音声に不備があったことが大井委員から指摘されたため、その内容を事務局に伝える」旨を第 2 回議事録(案)に記載する方がよい、という修正意見が挙げられた。これらの内容を議事録(案)に加筆したものを正式な議事録とすることが承認された。

2. 2014 年度 第 3 回環境工学本委員会の報告

第 3 回環境工学本委員会の内容に関して、特に本運営委員会に関連の深い事項について松原主査から報告があった。

■ 2014 年度 小委員会活動成果報告の提出

2014 年度の各小委員会の活動成果報告を 2015 年 2 月 13 日(金)までに事務局担当者へ提出しなければならない。報告書の書式は学術推進委員会 HP から DL できる。3 月末日までは差し替えが可能である。

■ 2015 年日本建築学会大賞候補の推薦依頼

2015 年日本建築学会大賞候補者の推薦書類は 2015 年 1 月 20 日(火)が提出期限となっている。

■ 2016 年学会賞論文部会候補者

環境系は東洋大学の高草木先生が 2015 年 5 月で委員退任となり、奈良女子大学の井上先生は 2016 年 5 月まで委員に留任となっている。

■ 2016 年日本建築学会奨励賞選考委員会委員候補の推薦について

2015 年日本建築学会奨励賞の審査の終了を機に委員の半数改選が行われ、東海大学の岩田先生と北海道大学の羽山先生が 2015 年 5 月で委員を退任となる。本運営委員会から宗方先生が奨励賞委員候補として名前が挙げられている。

■ 2014 年度大会若手優秀発表について

2014 年度大会（近畿）から実施することになった若手優秀発表に対する顕彰の審査について、熱環境運営委員会から審査方法に関する意見およびこの顕彰制度そのものに対する意見があったことが環境工学本委員会で報告された。

■ 2015 年度大会（関東）の研究協議会および研究懇談会の企画案

- ・研究協議会テーマ案：アジア蒸暑地域に映る環境工学の未来
- ・研究懇談会テーマ案：今後の環境工学を担う若手研究者－私の研究スタイル－Part II

■ 大会研究発表部門 細分類・細々分類の変更

地球環境委員会の廃止に伴い、「細分類：木材」の項目を環境工学分野のいずれかの運営委員会で細分類・細々分類に加えて欲しいという意見があり、これを踏まえて環境設計運営委員会で検討された結果、環境設計分野の細分類・細々分類が変更になった。

■ 2015 年度大会（関東）の OS

2015 年度大会の OS テーマについて報告があった。環境心理生理運営委員会では 2015 年度大会では OS は実施しないこととなっている。環境設計分野で「環境行動・省エネルギー行動」というテーマの OS が企画されている。

■ 2015 年度技術部門設計競技（案）

2015 年度技術部門設計競技について、審査員を打診中である。課題は「自然光を積極的に利用したサステナブル建築の「かたち」となっている。

■ AIJES 総則の修正（案）

新カテゴリーの AIJES の旧カテゴリーへの移行手続きに関して、音環境運営委員会から意見と対応（案）が挙げられた。

■ 刊行計画書

感覚・知覚心理研究刊行小委員会（主査：西名先生）より「心理と環境デザイン－感覚・知覚の実践研究－（仮題）」というタイトルで刊行企画が挙げられている。2014 年 12 月に査読が終了し、2015 年 1 月に入稿される。

■ 2015 年度調査研究委員会予算配分

2015 年度の環境工学本委員会の予算配分が報告され、環境工学本委員会では前年比 2% 増の 11,902,000 円となっている。環境心理生理運営委員会への配分は、2014 年度より 11,000 円増の 393,000 円の予定である。

■ 運営委員会・小委員会・WG の廃止／設置申請

環境心理生理運営委員会および傘下の 3 小委員会（環境心理小委員会、社会と環境心理小委員会、感覚・知覚心理小委員会）の設置申請が承認された。持続性社会の環境心理小委員会の後身として「社会と環境心理小委員会」、心理生理のフロンティア小委員会の後身として「感覚・知覚心理小委員会」の設置申請が環境工学本委員会で承認された。環境心理生理運営委員会傘下は小委員会 3、WG5 となる。

■ 催し物実施報告

環境心理生理運営委員会に関連するものとして、「第 14 回環境心理生理チュートリアル」（環境心理小委員会）、「環境心理シンポジウム」（環境心理小委員会）の実施報告が提出され、承認された。

■ 環境工学メールマガジンの配信

環境心理生理運営委員会に関連するものとして、「持続性社会の環境心理シンポジウム～人々の価値観や行動から考える」（持続性社会の環境心理小委員会）、「シンポジウム心理生理のフロンティアを語る（第2回）におい・かおりの知覚と空間設計」（心理生理のフロンティア小委員会）の開催案内が環境工学メールマガジンで配信されている。

■ 環境工学本委員会委員長の選挙

今回の環境工学本委員会（2015年2月17日（火））では委員長選挙が実施される。被選挙人はこれまでに本委員会に所属した委員が対象となる。

■ 予算の執行状況について

現在、環境心理生理運営委員会全体で197,928円予算が余っている。2014年12月末までに2014年度3月末までの執行計画を立て、事務局に報告する。その際、運営委員会内での予算調整も可能であり、また、環境工学本委員会全体で予算消化の調整も行われるため、運営委員会および各小委員会は確実に全額予算を消化する計画を立てることが望ましい。

■ 次回の本委員会開催スケジュール

2015年2月17日（火）

F. 【審議事項】

1. 大会若手優秀発表の受賞候補者の審査方法および審査結果について

環境工学本委員会の報告事項の中で、熱環境運営委員会から審査方法に関する意見およびこの顕彰制度そのものに対する意見があったことと関連し、本運営委員会でも2015年度の大会若手優秀発表の審査方法について議論が行われた。前回運営委員会での審議結果を踏まえて、審査方法に関する活発な議論が行われ、以下のような意見が挙げられた。

◎ 審査方法に関する意見

- ・ 委員会で合議により決定する際に、審査員は全員出席した状態が望ましい。（宗方委員）
- ・ 一度受賞した人を何度も候補者として考えて良いか。（榎委員）
- ・ 総合的に1つの評価項目（総合評価）で審査してもよいのでは。（宗方委員、辻村）
- ・ 発表を評価する場合、テーマの評価も大きく影響する（榎委員、宗方委員）。
- ・ 次年度に向けて、環境工学本委員会の採点基準がある方と適正な審査を行いやすい。（松原主査）
- ・ 対象が候補上限に満たない場合は、そのままの人数を候補者として推薦すればよい。
- ・ 大会梗概締め切り4月に締め切りであるが、大会発表は8月や9月であり、プレゼン時に梗概に載っていない内容は評価対象になるのか。（大井委員）
- ・ 評価の精密化、厳正化を考えていくことよりも、むしろ顕彰の位置付けをしっかりと議論して、その価値を学生に伝えていくことの方が大切ではないか。（讃井委員）

上記のこれらの意見に基づいて活発な審議が行われ、審査方法について運営委員会で合意に至った内容は以下の通りである。

- 受賞候補者の対象としては、原則一度受賞した方は顕彰の対象から除外する。
- 研究発表に対する評価項目として、研究内容・プレゼン・質疑等の受け答えを総合

的に評価する。本人が理解してしっかりプレゼンテーションできているか（①良い内容を、②本人が理解して、③うまく伝えられているか）を考慮して、総合評価を判断する。

- 顕彰の目的を考えると、梗概提出時に含まれていない内容でも、梗概提出から大会までの期間で研究が進んでいれば、その内容もプレゼンに加えても構わない。学生に対する周知は必要である。
- 顕彰の目的・位置付けを学生に対してしっかりと伝えていく。
- ◎ 審査方法に関する問題点（以降、継続して審議が必要）
 - ・ OS での発表をどう扱えばよいか。
 - ・ 学生（受賞候補者）に対する周知方法をどのようにするか。

2. 運営委員会および各小委員会の次期活動方針

運営委員会および各小委員会主査（主査が欠席の場合は委員）が活動報告を行った。

○ 環境心理生理運営委員会（松原主査）

次期運営委員会主査の西名委員が欠席であったため、次期活動方針に関する説明はなかった。現運営委員会主査の松原委員から、運営委員会の現体制は基本的に各小委員会主導で運営されているが、次期活動では特に現体制にとらわれず、次期主査のもと活動方針を固めて頂ければよいと報告があった。

○ 環境心理小委員会（主査：楨委員）

環境心理小委員会の次期活動について、楨委員から報告があった。基本的には本年度までと同様に、名称もそのまま活動を継続していく。チュートリアル運営 WG、研究手法 WG、かわいい WG（次年度より、「かわいいと建築に関する研究」WG に名称を変更）の 3 つを継続し、それぞれの WG の主査にもそのまま継続していく。基本的には WG の活動が主体となり、環境心理小委員会ではそれらの WG の活動を取りまとめていくことになる。

○ 持続性社会の環境心理小委員会（主査：宗方委員）

宗方委員から小委員会の次期活動について報告があった。次年度より、持続性社会の環境心理小委員会は「社会と環境心理小委員会」と名称を変更して、活動を継続する。2014 年度はシンポジウムを開催したが、次年度については、委員以外の人に講演してもらうミニ研究会のような位置付けで研究会を複数回開催するという形式を主体として活動する。

○ 心理生理のフロンティア小委員会（主査：土田委員）

主査の土田委員が欠席であったため、運営委員会主査で当小委員会の委員である松原主査より次期活動について説明があった。小委員会の名称を「感覚・知覚心理小委員会」と変更し（戻し）、傘下には新領域展望 WG と評価・実験法 WG の 2 つを新たに設置し、シンポジウムや勉強会の開催を主とした活動を行う。

3. 小委員会活動成果報告の提出

松原主査より、各小委員会主査へ 2 月 13 日（金）までに活動成果報告書を事務局に提出しなければならないという報告があった。報告書の書式は学術推進委員会 HP から DL できる。3 月末日までは差し替えが可能である。

4. 2014年度予算執行計画について

2014年12月末までに2014年度3月末までの執行計画を立て、事務局に報告しておかなければならない。運営委員会内での予算調整も可能であり、また、環境工学本委員会全体の予算執行を考慮した調整も行われるため、運営委員会および各小委員会は確実に全額予算を執行する計画を立てることが望ましい。

G. 【次回の開催日程】

2015年2月17日（火）17:30～19:30

以上